

カリキュラム区分		現行カリ			シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位	
		学年	学期						
助産学基礎領域	S101	1年	前期	助産学専攻科	必修	助産学概論	15	1	
						Introduction to Midwifery			
担当教員									
今村 朋子		井上 明子							
関連するDPキーワード									
☐	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。								
☐	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。								
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。								
	④ マタニティサイクルにある対象の個別性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる								
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。								
☐	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。								
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。								
授業目的									
助産学の基本概念を理解し、助産師の役割と責務を遂行するための知識を学ぶ。また、学外授業で現地見学を取り入れ、助産師としての視野を広める。									
到達目標（授業目標）									
1. 助産の意義や活動の専門性、助産師の役割と責務など、助産学の基本概念と助産師の職業特性について説明できる。									
2. 助産の歴史の変遷、国内外の社会的動向や課題、様々な活躍の場について学習し、助産師としての将来展望について考察できる。									
3. 授業全体を通して、“助産師：Midwife”すなわち「女性とともに」という対象に寄り添う基本姿勢を中心にしながら、助産師としての自己のありかたを考え、助産観を深めることができる。									
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	助産師とは何か：助産師の定義、コアコンピテンシー、倫理綱領 〔今村〕								
2回	助産師とは何か：職業的責務と法律 助産に関する統計 助産に関する理論 〔今村〕								
3回	助産と文化：文化の中の出産と助産 日本の産育習俗、愛媛の出産文化 〔今村〕								
4回	助産と文化：高忍日賣神社 現地見学 〔今村・井上〕								
5回	助産の歴史：日本における助産の歴史と助産師教育の変遷 〔今村〕								
6回	助産の国際比較：諸外国における助産師教育と業務範囲 女性と助産師のパートナーシップ 〔今村〕								
7回	開業権と職業的自立：医学モデルと助産学モデル 助産師の自立/とは？ 助産師の開業権 〔今村〕								
8回	様々な場での助産師活動：診療所における分娩の動向、助産師の活動 クリニックの現地見学 〔今村・井上・（教育協力者）〕								
9回									
10回									
11回									
12回									
13回									
14回									
15回									

16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	
成績評価方法及び基準	
・ 3～5回レポート (30%) ・ 6、7回レポート (30%) ・ 8回事前学習 (10%) とレポート (30%) トータル60点以上を合格とする。	
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二「助産学講座1 助産学概論」(医学書院)
参考図書等	・ カレン・ギリランドほか著、ドーリング景子訳「女性と助産師のパートナーシップ―実践のためのモデル(日本語版)、The Midwifery Partnership: A Model for Practice(原書名)」(日本助産師会出版) ・ 白井千晶「産み育てと助産の歴史 近代化の200年を振り返る」(医学書院)
授業時間外の学習について(授業準備のための指示)	
・ 事前配布資料がある場合は、資料を読んでから授業に参加する。 ・ 現地見学(8回)に向け、事前に地域や施設についての調べ学習を行い、質問事項の検討を行う。	
関連科目	
前科目	
後科目	専攻科全科目
実務家教員	
備考	・ 本科目は助産学専攻科の全ての科目の基盤として位置づくため、関連科目は全科目となる。 ・ 第4・8回は、現地の見学により、助産師としての視野を広げる機会とし、事前学習したことを現地でさらに深める。